

決算特別委員会委員長報告

平成28年度決算認定議案は、一般会計と特別会計・企業会計の2つの特別委員会を設置し、審査を行いました。

一般会計決算特別委員会は、9月25日と26日の2日間、特別会計・企業会計決算特別委員会は9月25日に開催され、審査の結果いずれも原案のとおり認定すべきものと決定しました。また、10月6日の本会議において、両特別委員会の審査経過及び審査結果が委員長より報告されました。

一般会計決算特別委員長報告(抜粋)

この委員会で交わされた主な質疑は次のとおりです。

委員長 大石 勇

- Q 職員の時間外手当が昨年度より減額となったが、その理由は何か。
- A ノー残業デーを徹底したり、時間外年間計画の進行管理を行うなど、全庁的に時間外手当削減に向けて努力しました。
- Q 生活困窮者に対しても、不納欠損にしないために、強制的な徴収を行っているのか。
- A 生活困窮者に対しては、財産調査を実施し、財産がなければ滞納処分の執行を停止し、3年経過後に不納欠損となる処理をしています。
- Q バス交通対策費に関連して、デマンド型乗り合いタクシーの使い勝手が悪いと聞いているが、実態はどうか。
- A デマンド型乗り合いタクシーは乗り合い率が1.3人程度と悪い状態です。誘い合って乗れば安いという動機付けを工夫すれば、利用者増も見込まれます。
- Q 掛川駅に休憩スペースがない。また、観光案内所ビジターセンターもわかりにくく、有効活用されていないが、いかがか。
- A 展示の見直しや休憩所の設置を検討していきます。また、案内業務の体制の見直しも検討していきます。
- Q 高齢者生きがい活動支援通所事業費について、事業のさらなる充実は考えているのか。
- A 今年度、介護保険で始まった総合事業の中で、通所事業をやっていきたいと考え、現在検討中です。
- Q 子ども医療助成事業費について、近隣市町が対象を高校生までにしていくが、いかがか。
- A 検討するよう担当課に指示していますが、コンビ二受診を防ぐために、多少の負担は継続していきたいと考えています。

特別会計・企業会計決算特別委員長報告(抜粋)

この委員会で交わされた主な質疑は次のとおりです。

委員長 鷲山 喜久

国民健康保険特別会計

- Q 特定健康診断の受診率目標は55%であるが、実績は35.6%である。要因は何か。
- A 農協の人間ドックは、医師の問診がないためカウントされていません。この分を入れると41%になります。今後、受診勧奨を行います。

後期高齢者医療保険特別会計

- Q 受診率が国保加入者よりも低いのは、高齢者の対象者が常に病院にかかっているからか。
- A 高齢者は医療機関にかかっている方が多く、人によっていろいろな病気が重複しているため、必要ないという人がかなりいます。

介護保険特別会計

- Q 生活支援体制支援整備について、地区まちづくり協議会に対して支援はどこまでか。
- A 約半分の自治区で高齢者サロンを実施しており、その中で介護予防と生活支援の両方を地域で実施できるよう広めていく考えです。

掛川駅周辺施設管理特別会計

- Q 駅周辺施設管理費の緑化管理委託料について、年間で何回の作業を委託しているのか。
- A 委託内容は、高木剪定、刈り込み、防除、施肥の4項目で高木剪定と施肥は年1回、刈り込みは年2回、防除は年3回です。

水道事業会計決算特別会計

- Q 資本的収入の国庫支出金が、予算に対し決算は、1,610万円少ないが事業執行に問題ないのか。
- A 予算額が4,400万円に対し、国の内示率が63.5%で、管路延長ができなくなってしまうため、借り入れを行って事業を実施しました。